【理学療法学科】

様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	－人	－人	7 人	－人	7 人	9 人	9 人	0 人	35 人	22.4 人	
計	－人	－人	7 人	－人	7 人	9 人	9 人	0 人	35 人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
〇	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学実習	15	内山　秀一	教授（兼任）
		運動学Ⅱ	20	松井　剛	講師（兼任）
		運動学Ⅱ	10	佐々木　千裕	教員（専任）
		機能解剖学	15	山﨑　尚樹	教員（専任）
		機能解剖学	15	櫻井　亮太	教員（専任）
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	代田　欣司	講師（兼任）
		臨床心理学	15	黒住　享弘	臨床心理士（兼任）
		内科学Ⅰ	15	曲　寧	教授（兼任）
		内科学Ⅱ	12	西戸　輝彦	臨床検査技師（兼任）
		内科学Ⅱ	2	武市　尚也	理学療法士（兼任）
		内科学Ⅱ	1	辻　正富	医師（兼任）
		神経内科学Ⅰ	15	廣瀬　好文	医師（兼任）
		神経内科学Ⅱ	8	石井　映幸	医師（兼任）
		神経内科学Ⅱ	7	伊藤　恒	医師（兼任）
		整形外科学Ⅰ	9	菅原　仁	講師（兼任）
		整形外科学Ⅰ	6	阿部　幸一郎	准教授（兼任）
		整形外科学Ⅱ	8	坪内　敬典	教員（専任）
		整形外科学Ⅱ	7	村仲　隼一郎	教員（兼任）
		臨床医学Ⅰ	4	曲　寧	教授（専任）
		臨床医学Ⅰ	4	近藤　哲	臨床心理士（兼任）
		臨床医学Ⅰ	3	上松　太郎	看護師（兼任）
		臨床医学Ⅰ	2	伊藤　恒	医師（兼任）
		臨床医学Ⅰ	1	高橋　知之	教員（兼任）

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学Ⅱ	8	曲　寧	教授 （兼任）
		臨床医学Ⅱ	3	廣瀬　好文	医師 （兼任）
		臨床医学Ⅱ	3	遠藤　朱美	教員 （兼任）
		臨床医学Ⅱ	1	木島　朝子	医師 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅰ	15	田中　博	医師 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	3	星川　嘉一	医師 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	3	兼坂　茂	医師 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	3	辻　正富	医師 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	2	住吉　克彦	教授 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	1	加藤　裕久	教授 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	1	佐野　和美	教授 （兼任）
		リハビリテーション医学Ⅱ	1	小泉　由香里	看護師 （兼任）
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療社会学	5	川松　麗	社会福祉士 （兼任）
		医療社会学	3	増田　信代	看護師 （兼任）
		医療社会学	3	古谷　実	教員 （兼任）
		医療社会学	2	岩淵　裕	教員 （兼任）
		医療社会学	2	山根　剛	教員 （兼任）
		地域リハビリテーション	15	樋口　美幸	理学療法士 （兼任）
専門	基礎理学療法学	症候障害学Ⅰ	15	米本　竜馬	教員 （専任）
		症候障害学Ⅱ	4	岡崎　浩二	教員 （専任）
		症候障害学Ⅱ	11	五十嵐　祐介	教員 （専任）
		症候障害学Ⅲ	8	米本　竜馬	教員 （専任）
		症候障害学Ⅲ	7	坪内　敬典	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	4	岡崎　浩二	教員 （専任）

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
専門	基礎理学療法学	リハビリテーション総論	2	坪内　敬典	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	3	山崎　尚樹	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	7	櫻井　亮太	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	4	米本　竜馬	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	4	佐々木　千裕	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	4	五十嵐　祐介	教員 （専任）
		リハビリテーション総論	2	斉藤　琴子	講師 （兼任）
	理学療法管理学	職業管理学	15	坪内　敬典	教員 （専任）
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅱ	12	佐々木　千裕	教員 （専任）
		理学療法評価学Ⅱ	5	五十嵐　祐介	教員 （専任）
		理学療法評価学Ⅱ	13	斉藤　琴子	講師 （兼任）
		理学療法診断学Ⅱ	28	五十嵐　祐介	教員 （専任）
		理学療法診断学Ⅱ	2	坪内　敬典	教員 （専任）
		動作分析学	15	山崎　尚樹	教員 （専任）
	理学療法治療学	運動生理学	15	富田　エミ	講師 （兼任）
		運動療法学演習	15	山崎　尚樹	教員 （専任）
		物理療法学Ⅰ	15	坪内　敬典	教員 （専任）
		物理療法学Ⅱ	15	松井　剛	講師 （兼任）
		理学療法技術論Ⅰ	20	米本　竜馬	教員 （専任）
		理学療法技術論Ⅰ	10	松田　徹	理学療法士 （兼任）
		理学療法技術論Ⅱ	15	樋口　美幸	理学療法士 （兼任）
		理学療法技術論Ⅲ	30	城所　亮太	理学療法士 （兼任）
		理学療法技術論Ⅳ	15	三沢　峰茂	理学療法士 （兼任）
		理学療法技術論Ⅴ	15	田中　宇徳	理学療法士 （兼任）

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
専門	理学療法治療学	理学療法技術論Ⅵ	15	武市　尚也	理学療法士 （兼任）
		理学療法技術論Ⅶ	8	小林　好信	理学療法士（兼任）
		理学療法技術論Ⅶ	7	西澤　肇	理学療法士（兼任）
		理学療法技術論Ⅷ	14	杉山　真輝	理学療法士（兼任）
		理学療法技術論Ⅷ	1	山口　利貴枝	看護師 （兼任）
		義肢学	15	斉藤　琴子	講師 （兼任）
		装具学	15	斉藤　琴子	講師 （兼任）
		卒業研究Ⅰ	20	米本　竜馬	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	8	岡崎　浩二	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	8	坪内　敬典	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	8	山崎　尚樹	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	8	櫻井　亮太	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	8	佐々木　千裕	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	8	五十嵐　祐介	教員 （専任）
		卒業研究Ⅰ	7	斉藤　琴子	講師 （兼任）
		卒業研究Ⅱ	30 （時間）	岡崎　浩二	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	15 （時間）	坪内　敬典	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	15 （時間）	山崎　尚樹	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	15 （時間）	櫻井　亮太	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	30 （時間）	米本　竜馬	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	15 （時間）	佐々木　千裕	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	15 （時間）	五十嵐　祐介	教員 （専任）
		卒業研究Ⅱ	15 （時間）	斉藤　琴子	講師 （兼任）

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
専門	地域理学療法学	日常生活活動学Ⅰ	30	岡崎　浩二	教員 （専任）
		日常生活活動学Ⅱ	30	岡崎　浩二	教員 （専任）
	臨床実習	臨床参加研修Ⅰ	45 （時間）	米本　竜馬　他	教員 （専任）
		臨床参加研修Ⅱ	225 （時間）	米本　竜馬　他	教員 （専任）
		臨床参加研修Ⅲ	315 （時間）	米本　竜馬　他	教員 （専任）
		臨床参加研修Ⅳ	315 （時間）	米本　竜馬　他	教員 （専任）

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所リハビリテーションの見学	2 年前期	社会福祉学	1 年前期
		リハビリテーション概論	1 年前期
		理学療法概論	1 年後期
		地域リハビリテーション	2 年前期
評価実習の実践	3 年後期	理学療法診断学Ⅰ	1 年前期
		理学療法評価学	1 年後期
		理学療法診断学Ⅱ	1 年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2 年前期
		日常生活活動学Ⅰ	2 年後期
		動作分析学	3 年前期
総合臨床実習の実践	4 年前後期	運動療法学演習	2 年後期
		物理療法学Ⅰ	3 年前期
		物理療法学Ⅱ	3 年前期
		理学療法技術論Ⅰ	3 年前期
		理学療法技術論Ⅱ	3 年前期
		理学療法技術論Ⅲ	3 年前期
		理学療法技術論Ⅳ	3 年前期
		理学療法技術論Ⅴ	3 年前期

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
総合臨床実習の実践	4年前後期	理学療法技術論Ⅵ	3年前期
		理学療法技術論Ⅶ	3年前期
		理学療法技術論Ⅷ	3年前期
		日常生活活動学Ⅱ	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	ハラスメント委員会、自己評価委員会、授業評価委員会、全体研修教育部会
委員名（委員長）	ハラス（岩淵裕）、自己（古谷実）、授業（古谷実）、全体（加藤修一）
組織の開催頻度	ハラス（随時）、自己（年１回）、授業（年２回）、全体（年６回）
組織の取り組み内容	・学内および実習におけるハラスメント事例への対応
	・全ての専任教職員に教育活動全般に関するアンケートを実施し、学園本部に報告
	・授業評価アンケートの実施、シラバス作成と配布の徹底を管理
	・教育活動全般の改善に向けた研修会の計画と実施
自己点検・評価結果の公表	授業評価アンケート以外はＨＰに公表 （URL：https://www.crc.ac.jp/disclosure.html）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	授業評価委員会
	委員構成等	教務部長、各学科および事務課担当者
	改善の仕組みの実際	委員構成員がシラバス内容を確認し、必要に応じて各学科および当該科目担当者と検討する。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

教育活動全般についての教職員アンケート結果（昨年度分）を閲覧可とし、意見吸い上げをすることで、今年度の運営に活かす。